

厚川産業 株式会社

認定テーマ：桐材の機能強化による新しいインテリア生活雑貨商品及び建材の開発・販売

1. 認定事業の現況

本認定事業は、秋田桐の林業者と春日部の加工業者が連携し、桐材の機能強化を行いながら、桐材の新しいインテリア生活雑貨や建材を開発・販売していく。本認定事業を通じて、桐の生産地と桐の加工産地とがつながりを持って情報発信を行い、独自ブランドを確立していくものである。

(1) 事業化した商品について

認定事業については、①桐の小箱や一般消費者向けインテリア家具ブランド「kiri-life」、②ホテルや商業施設、オフィスなどのパブリックスペース向け家具の「KIRIS Series」、③桐材に3次元クラフト加工を施すことで、木目では表現できない立体的で柔らかな表情の素材をもつ「桐アートパネル」の開発・商品化を行ってきた。

桐の小箱については、調味料入れや三段重箱、ミニフードボックス、フードストッカーなどの開発に着手した。製造に関しては春日部市内の桐製造業者である榎松田桐箱へ製造委託を行いながら実施している。開発にあたって苦労したポイントとしては、桐の素材を理解したうえでデザインを行うことと、価格との折り合いをつけることにあった。本商品開発にあたって外部のデザイナーからの協力を得ながら行ってきたが、デザイン性と桐のもつ機能性や用途等とのバランスの難しさがある。また今回開発した桐箱は手作業で行うことから、発注から納品までに2～3か月かかる。今後は安定供給できるデザインへの改良や、異業種とのタイアップを行いながら、用途に合わせた改良を行っていく方針である。

(図表) 左上：調味料入れ、左下：ミニフードボックス、右上：三段重箱、右下：フードストッカー



一般消費者向けのインテリア家具は、丸座椅子やローテーブル、スツール、ロッキングチェア、桐たたみなどの商品化を実現してきた。商品化にあたって苦労したポイントは、丸椅子やローテーブルの足の加工にある。春日部市内で足の部分の加工を行う事業者がないことから、飛騨の家具加工事業者へ一部委託せざるを得なかった。加工精度を確認するために飛騨へ赴くこともあった。今後は自社で加工できるように改良をかけていく方針である。また本商品は見た目の安心感があるものの、売り方が課題であった。当初は住宅展示場や百貨店の催事などに置いてもらうことで、一般消費者向けにアプローチしていたが、売上に結びつかなかった。また従来の家具店で販売も難しい商材である。試行錯誤を重ねた結果、直接一般消費者向けにアプローチするのではなく、設計事務所向けの家具カタログへの掲載を行うことで、一般住宅販売のインテリア家具として提案することとなった。

(図表) 左上：丸座椅子やローテーブル、左下：スツール、右上：ロッキングチェア、右下：桐たたみ



ホテルや商業施設、オフィスなどのパブリックスペース向け家具の「KIRIS Series」では桐のアームチェアの開発に着手してきた。開発にあたっての課題は、①お客様のニーズを把握すること、②桐の耐久試験への対応、③桐の傷つきやすさから補修ができるよう組み立てられるノックダウンにて行うことがポイントとなった。これらへの対応を行ってきたことで、大手家具メーカーやゼネコン向けのアプローチを行えるようになった。



「桐アートパネル」については設計・施工方法まで確立してきた。パネルの加工にあたっては静岡の特殊加工会社からの技術指導を受けながら、プログラムの習得を行ってきた。現在では、社内で内製化を行えるだけでなく、パターンの多様化によるオリジナル商品の開発にまで着手できるようになってきた。

また簡易に取り付け可能な製品にすることで、建築施工業者が簡易に組み立て・取り付けができる製品にまで完成している。これにより新建材で建てた建売住宅の壁面の一部に桐アートパネルを施すことのほか、ホテルや結婚式場のラウンジ等の使用など、一定空間の壁面に彩りかつ機能性を持たせることが可能になった。



(2) 秋田県雄勝広域森林組合との連携

2016年（平成28年）2月に春日部市ふれあいキューブにて「桐のある暮らし展」を開催した。本目的は秋田県雄勝広域森林組合との連携事業を首都圏に向けて発信していくことのほか、秋田の桐産地の現状や春日部市が桐製造業の産地であることを認知するきっかけづくりを行うことである。当日は認定事業である桐アートパネルや桐のアームチェアのほか、秋田市の食材や地酒、産業の現状についての発信を行うことができた。



2. 今後の展望（見通し）

今後については、お客様のニーズに合わせた商品の更なる改良と販路開拓がテーマである。認定事業としては様々な商品開発に取り組み事業化は達成したが、事業として継続していくためには、更なる商品の改良と販路開拓が必須である。認定事業は一旦終了を迎えるものの、引き続き秋田県雄勝広域森林組合との連携を行いながら商品開発・販売の他、首都圏に向けた秋田の桐と春日部の桐製造の共同発信を行っていく。

桐の小箱については、製造・供給量に限りがあることのほか、顧客ニーズに合わせた利用シーンをイメージしていく必要がある。今後は安定供給できるデザインへの改良や、異業種（和洋菓子屋やお茶事業者など）とのタイアップを行いながら、用途に合わせた改良を行っていく

方針である。

丸座椅子やローテーブル、スツール、ロッキングチェア、桐たたみについては引き続き設計事務所や卸業者向けのカatalogへの掲載を行うことで、インテリアとしての提案販売を行っていく方針である。

桐のアームチェアについては、空港やホテルラウンジの他、百貨店のフィッティングルームなどの利用シーンや用途・特徴などをアピールしながら企画提案を行っていく方針である。

「桐アートパネル」については新建材で建てた建売住宅の壁面の一部に桐アートパネルを施すことのほか、ホテルや結婚式場のラウンジ等の使用など、一定空間の壁面に彩りかつ機能性を持たせるよう提案営業を行っていく方針である。

3. 認定を目指した経緯

埼玉県春日部市は江戸時代より続く桐の加工産地であるが、桐箆笥の需要の落ち込みから桐ダンス製造は存亡の危機を迎えている。ライフスタイルの変化に伴い、着物を持たない消費者が多数派を占めること、桐ダンスよりもウォークインクローゼットを好む消費者が主流となっている。また桐箱などの小物生活雑貨は、ギフト市場の低迷や包装の簡素化により激減している。

そこで、桐のもつ吸湿性や軽くて柔らかい機能性を活かしながら、現在のライフスタイルに合わせた収納もしくはインテリアとしてのデザイン開発を行うこと、安価な海外製品に負けない上質かつ新たな需要開拓を行いたいと考え、本認定事業へ取り組むこととなった。

一方、連携先秋田県雄勝広域森林組合では、県南に分布する「秋田桐」の供給産地として質・量ともに最上位にランクされている。しかしながら平成11年以降、生産額としても下降傾向にあった。また生産者の高齢化や後継者不足などから、市場に出る桐材の品薄状態が続いている。植樹から成長まで約20年程度要する国内産桐材の生産を増やしていくためには、いかに桐の需要を喚起し、市場を活気づかせることがカギとなっていた。

そこで埼玉県産業技術総合センターからの協力を得ながら、両社の想いを共有したところ国内の桐の生産・消費拡大のほか、各産地への将来に対する想いが一致し、連携し本事業を目指すこととなった。

4. 利用した中小機構の支援策

本認定事業にて利用した中小機構の支援策は、①販路開拓コーディネート事業、②専門家派遣事業である。販路開拓コーディネート事業は、BtoB向けにターゲットの再設定を行ったうえで利用・用途シーンの提案を行うことに非常に役に立った。本認定事業では、桐のアームチェアを大手ゼネコンや大手家具メーカー向けにアプローチを行い、製品導入にあたっての課題を解決していくことに注力した。特に製品の耐久試験や桐の傷つきやすさへの解消方法（ノックダウンによる部品交換等が可能）のほか、なぜ桐なのか桐の製品特徴や生産・製造に関する希少性やこだわりについてアプローチする方法が明確になった。なお販路開拓コーディネート事業では現社長のご息様・ご息女様が中心となり、ブラッシュアップシートの作成をはじめゼネコン・海外家具メーカーへの直接的なヒアリング・アプローチを行うことで、営業担当者としての育成のみならず、桐のものづくりに対する想いを自らの言葉で伝えることができるよう

になるなど、後継者育成のきっかけともなった。この一環として、サンプル提供もできるカタログの作成を行い、捨てられないパンフレット作成にもつながっている。

②専門家派遣については、海外への展示会出展の目的と課題の明確化に取り組んできた。海外展示会出展が初めてであったことから、出展前後のアプローチ方法や現地でのライフスタイルのマーケティング調査の方法などを理解することで、その後の海外展示会出展のノウハウやフォローにつなげることが可能になった。

今後は、消費者や企業側のニーズを把握しながら、製品の改良に引き続き進めていくと同時に、桐製品の更なる活用方法に取り組む方針である。

5. 企業概要

事業者名	厚川産業株式会社		
本社所在地	埼玉県吉川市旭 10-1		
ホームページアドレス	http://www.atsukawa.co.jp/		
設立年月	昭和 36 年 4 月 1 日		
資本金	26,000 千円	従業員数	20 名
売上高	全体 375,780 千円、認定事業の売上高 2,069 千円		

※平成 27 年 12 月 31 日現在

6. 認定事業の概要

テーマ名	桐材の機能強化による新しいインテリア生活雑貨商品及び建材の開発・販売
テーマの概要	秋田桐の林業者と春日部の加工業者が連携し、桐材の機能強化を行いながら、桐材の新しいインテリア生活雑貨や建材を開発・販売していく。本認定事業を通じて、桐の生産地と桐の加工産地とがつながりを持って情報発信を行い、独自ブランドを確立していく。
認定期間	平成 24 年 3 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日